

令和2年度四万十町総合振興計画審議会におけるご意見への対応状況について

	ジャンル	ご意見	R2審議会の中での回答	その後の状況	
				部署	回答
1	広報・シティプロモーション	広報戦略マニュアルや四万十町ロゴの使用については、民間の事業者も活用できるように検討してみてもは。	その方向で検討していきたい。	企画課	四万十町ロゴ（広報戦略マニュアル）は、使ってくださいというお願いというよりは、「使いたくなる」プロモーションを進めています。ホームページ（フロントページ）や公式SNS、看板（四万十町中央IC付近）など様々なところで目にするように進めており、一定の認知が広まってきたところで、今年度中（令和3年度中）には四万十町ホームページから無料でダウンロードができるように考えています。
2	広報・シティプロモーション	まちの広報誌等に小さくてもいいので、四万十町の中高生がまちの魅力をお知らせするようなコーナーや企画（まちづくり）に参加できる機会を設けることはできないか。	未回答	企画課	今年の4月号から「じゆうく。」の連載コーナーをスタートさせ、卒業生へのインタビューや「じゆうく。」でプロジェクトに挑む生徒さんの紹介やインタビュー記事などを掲載しています。今後、中高生が参画できる記事やコーナーもさらに充実させていきたいと思えます。

3	移住定住	移住者の生の声が聞けたり、先輩移住者の方の体験談などが見れるような形（ホームページ等）ができたらいと思う。	ファンミーティングの中で先輩移住者の方に来ていただいて、リアルな話をさせていただいたりしている。しかし、オンラインが多くなったことによりそれができていないので、今後検討していきたい。	にぎわい創出課	コロナ禍ということでオンラインでの移住相談を開催しています。その中で先輩移住者と直接話せるトークルームを設け、移住検討者から先輩移住者に質問をして不安を解消してもらうという手法を取っており好評もいただいているところです。HPについてはR3年度中に改修を行う予定で、先輩移住者へのインタビュー等も掲載していくように検討しております。
4	観光	冬のイベントが少ないので考えてみては。また、四万十町のホームページ等では、観光スポットの紹介はされているが、実際の行動のプランとうまく組み合わせて提案ができていないと思う。	未回答	企画課	冬の集客として、イベントではなくキャンプ客の誘致などで集客を図るための取組を企画しています。イベント実施は費用対効果などがきちんと検証されたもの以外については、役場職員や固定化されたボランティアばかりが携わっており労力的にも不足気味なため極力減らした方がよいと考えています。
			観光資源は沢山あるので、その資源をうまく組み合わせて観光メニューづくりを行っていきたい。	にぎわい創出課	観光資源を活用した周遊企画を実施するほか、総務省の地域活性化起業人の制度を活用し、(株)JTBから職員を派遣していただき、観光メニューの開発や磨きこみを実施しています。
5	観光	今まで気がつかなかった地域資源や観光客の動きなど、現場の人間でないと気づきにくいことが沢山あると思う。そういった情報を広げあがる仕組みをつくれれば良い観光メニューづくりができるのでは。	未回答	にぎわい創出課	観光振興を進めるうえで核となる観光協会との連携により、事業所の現場の声を拾い上げをともに実施し、観光動向調査の検討等も視野に入れながら展開していきたい。

6	観光	四万十川に遊びに来た時に、例えば自然環境に寄与できる取り組みが何か1つあってもよいのでは。遊びに来た人も、町民も自然環境に目がいくような取り組みを考えてみては。	未回答	にぎわい創出課	昨今注目されるワーケーションと組み合わせた自然環境を保護するメニューの構築や、自然と調和するトレッキングイベント、農泊体験と通じたエコツーリズムなど自然と触れ合いながらエコ活動に繋がる取り組みの検討を実施していきます。
				企画課	観光客がごみを残さない仕組みや自然環境の良さのアピール、遊びの要素を取り入れたごみ拾い（例：スポーツごみ拾い、カヌー体験と併せたごみ回収など）の実施などを検討していきたい。
7	観光	観光分野で四万十川をもっとPRできないか。	未回答	にぎわい創出課	SNSやHPにて情報発信をすすめるほか、ストーリー性のあるプロモーション動画の作成や積極的なメディア発信にも力をいれていきたい。
				企画課	これまでも四万十川のPRは様々な個人・団体等で行っているが、観光客の四万十川に対するニーズなどもきちんと調査したうえで、情報の集約化や町としての推しポイントの選定、これまでにないPR方法の検討などに取り組むようにしたい。
8	観光	観光列車で訪れた方を町内周遊につなげる仕組みづくりができれば。	どういったお客さんが多いのか調べて今後の観光メニューづくりに生かしたい。	にぎわい創出課	パンフレットの作成と情報発信に加えて、観光列車活用検討協議会を中心に、スタンプラリーの実施の検討や町内事業との連携によるメニュー開発に取り組んでいます。
9	観光	観光振興は住民が一番参加しやすいところだと思うので、町民と共に取り組む部分ということを町民にも分かり易くもっと表に出して	未回答	にぎわい創出課	町内事業所とともに取り組む周遊企画や、観光列車の手振り等のおもてなし活動、米こめフェスタや台地まつりの町内イベントなど、地域資源と人が一緒に取り組む事業を拡大していくとともに、四万十町の特色ある観光施策を展開していきたい。

		みては。また、四万十町の強みに特化した施策をうっていくことも検討してみてもいい。		企画課	昨年行った住民の観光意識アンケートなども踏まえ、観光を主要産業として捉え、これまでのボランティア的協力から経済活動として位置付けられるような仕組みに転換していくような施策を検討したい。
10	観光	四万十町は霧のまちなので、それを観光にもっと生かせないか。	以前窪川町時代に霧のまちフォトコンテストということで霧に関連したイベントも行っていましたが、最近では実施できていない。先ほど、観光列車の話もあったが、影野地区は霧がよく出るところでもあるので、観光列車と関連させてPRできないか検討していきたい。	にぎわい創出課	四万十川と霧の調和が、風情ある景観を生み出し、農地の広がる地域と霧がマッチした雰囲気などはこの地ではしか見ることのできない貴重な観光資源であり、情報発信によってPRを積極的に行っていきたい。また、フォトコンテストやSNS機能を活用した企画の実施も検討していきます。
11	観光	四万十町は海も川も山もあっていいけど、星もきれいやねとよく言われます。星もPRしてみてもいいか。	未回答	にぎわい創出課	空気の澄み切った四万十町ではどこから見上げてても星空はきれいで、星空×キャンプのような星空×〇〇は町の強みになるものだと考えている。ぜひ星空を活用したコンテンツの作成や魅力発信を行っていきたい。
				企画課	平成28年に実施した星空のまち青空のまち全国大会以降、星に対する取組が継続できていないため全国の事例なども踏まえたうえで観光資源として有効活用できるように取り組むべきと考える。
12	人材育成	じゅうくを中学生、小学生に広げていく考えはないか。	R3については、じゅうくのスタッフが中学校に訪問するなど、中学生に対して関わりを持たせていくようにしたい。	人材育成推進センター	来月以降から、定期的に中学生も通塾できる日やコースを設ける予定です。

13	人材育成	高校の特筆した特性が見えてこないのが不安です。	学力の面や進路の保証も含めて高校の先生方と連携して高校の魅力化づくりに取り組んでいく。	人材育成推進センター	授業や加力学習等の高校側の地道な取り組みや、町からの側面支援（町営塾）等により、両校ともに生徒が希望する進路実現が図れるようになってきている。特に、昨年度は有名私立大や四国内の国公立大への進学者が生まれるなど年々成果が挙がっているため、今年度はこれらを基に広報や説明会等を通じて中学生やその保護者、そして町民に対して周知を進めています。
14	人材育成	じゆうくや、産業振興塾、四万十塾など様々な取り組みが行われているのに、それがうまく繋がっていないように感じる。例えば、高校生がそれに参加するとか、横のつながりをもっと出して、高校の魅力化につなげていけないものか。	それぞれの取り組みが繋がっていないというのはおっしゃるとおりと認識している。	人材育成推進センター	設置目的、方向性等が違う3つの塾が連携するのはもちろん良いと思うが、連携させる事を目的化してはいけないので、必要に応じて連携できる体制は整えています。
15	人材育成	四万十高校、窪川高校の存続というところで、町の取り組みは見えるが、高校の取り組みが見えてこない。	中学校の保護者向けの高校の情報発信というところでは、確かに弱い部分があった。町民全体に、高校もこんな取り組みをしているよということが分かるようなことを高校と連携して行っていきたい。	人材育成推進センター	今年度は、中学生の保護者向け説明会を実施する予定で、ターゲットを明確にして広報活動を行っていきます。
16	人材育成	地元高校生が中学生に対して、人数は少ないけど、学校生活は楽しいよということをアピールしてあげてはどうか。	未回答	人材育成推進センター	町内の子ども達向けのイベント等に高校生が指導者として参画する、町営塾と一緒に学ぶ機会を設ける等、日常的に高校生と中学生が交流できるような取り組みを進めていきます。

17	人材育成	地元高校の課（コース）がそのまま地元企業の就職に直結しているような形があれば、地元高校への進学する子も増えるのではないかと。高知市内の商業系や工業系への高校への進学が多いのはそういった理由からでは。	未回答	人材育成推進センター	「就職に直結する学科があれば町内高校への進学者が増えるのか」等は、一定の検証が必要ですが、最終的には県教委の判断となります。町としては、現在の両校の学科を活かした魅力化や情報発信に努めていきたい。
18	その他	オーガニック給食に取り組むことで、自然環境の保全や農林水産業の振興、健康促進など様々な効果があり、まちのPRにもつながるのでは。	未回答	学校教育課	<p>本町の学校給食においては、食材である米、肉、野菜等は可能な限り地産地消を促進する方針です、特に野菜類については、町内の生産者団体、各農業者グループの方々と定期的な打合せ等を通じて、可能な減農薬の安全・安心な食材の提供を受けて調理を実施しています。</p> <p>この様な中、オーガニック給食の導入については、大きく3点の課題があります、1点目は、食材の供給面で、窪川給食センターでは玉葱、胡瓜など主力野菜は1日で50kg近くを必要としています。</p> <p>2点目は、食材の規格・形状について各センター共に様々な調理機械を使用している関係で一定の規格品が必要となります。</p> <p>3点目は、食材の購入価格の関係です、給食食材費は、保護者の負担となっているため、出来る範囲で低価格の食材の発注に努めています。</p> <p>以上の様な課題があり導入に向けては、今後、オーガニック野菜の生産面、供給体制などの状況を確認しながら、検討する必要があると考えております。</p>

19	その他	窪川中学校の屋上に天体ドームがあるが、今は使われていない状況と聞いている。修理して使うことはできないか。また、できれば一般に開放してもらえれば大人から子供まで星に興味を抱き、四万十町を好きになってもらえるのではないか。	未回答	学校教育課	開閉部分の不具合及び望遠鏡が古いこともあり多額の修繕費がかかる状況にあることから今、現在使用が出来ない状態です。今後においても改修して一般開放することは、学校管理上厳しいと考えてます。
20	その他	地域住民の半数が高齢者となるため、それを高齢者福祉だけに任せずにいろんな方面から山間地域に力を入れてほしい。	未回答	企画課	高齢者がいきいきと生活できるような施策の立案を行っていく必要があるため、今後各課横断的な取り組みも検討していきたい。
21	その他	子育て環境の整備に一番力を入れてもらいたい。若者が安心して子育てできることで、人口も増えていき、四万十町ファンも増えると思うので。	未回答	企画課	子育て環境の支援については、出産祝金の支給や保育料の第2子以降の保育料の減免など各種施策を実施しています。住民サービスの向上により、若者の定住促進につながるようどこまで支援を行っていくかについては財源の確保も踏まえて継続した協議を行っていく予定です。
22	その他	四万十町をPRするのに、マスコットキャラクターを作ってはどうか。(須崎市のしんじょうくんのように)	未回答	企画課	10数年前に検討したことがあります。当時の行政内では理解が得られなかった。キャラクターは作ることが目的ではなくその後の活用が重要なため、活用方法やPR手法も合わせた検討が必要と考えています。